

世界遺産を旅して考える

その魅力と特異性

これまで60年にわたり海外を十分に歩き回り、数多くの世界遺産を訪れ、感銘を受けてきた。

一口に世界遺産と言っても歴史的な史跡や文化の「世界文化遺産」と、ハッとさせられ自然界の魔力に取り込まれる「世界自然遺産」、そしてそれらをミックスした「世界自然文化遺産」がある。それぞれに固有の意味合いと独自の価値がある。

文化遺産では、思いがけず古代人の傑出した建築技術に触れ合え、時代をともにする臨場感を味わえる。そこには独自の歴史と伝統がある。時代的に紀元前まで遡り5千年近い昔に建造されたカイロ郊外ギザのピラミッドや、新しいものでは、未完成的のパルセロナのサグラダ・ファミ

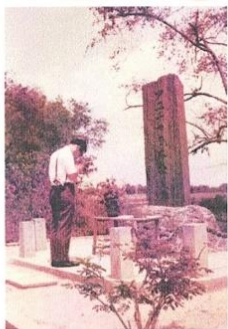
リア教会に至るまで多様な文化的建造物がある。

一方、自然遺産では滅多にお目にかかれない雄大な自然とその光景を目の前にして、思わず唸らされることがある。世界3大瀑布のひとつ、イグアスの滝（ブラジル）の迫力にうっとりしていると、膨大な水量の滝の水が激しく流れ落ちるそのただ中へ、突然近くを飛来していた燕の集団が一斉に潜り込むようなドラマチックなシーンには言葉もなく、呆気にとられるばかりである。自然遺産それ自体もさることながら、他の生物と一体となった思いがけない現象に心を奪われるのである。

世界遺産は、日本でも現在26か所が登録されている。中でも文化遺産

1. アユタヤ（タイ）

海外武者修行に憧れ、1966年初めて特別な目的もなく放浪の旅に出て、世界各地の観光地などを歩き、その過程で世界遺産も訪れた。まだ世界遺産制度自体がない時代だったが、最初に訪れた世界遺産は、江戸時代に山田長政が活躍し繁栄した、日本人町があったタイのアユタヤだった。街の外れには寝釈迦像や、パゴダが至るところにあり、子どもたちがそこに登っては遊んでいた。市内バス車内でたまたまタイの軍人さんと知り合い、その自宅へ



アユタヤの日本人町記念碑

招かれ、そ

こへ家族や近所の人々まで集まり賑やかな宴会となり、地元の人々と心をひとつにして会話を楽しんだ。あの時の温かい思い出が忘れられず、その3年後のハネムーンで事前に連絡もせず、唐突に軍人さんのお宅を訪れた。軍人さんも新婚夫婦の突然の訪問に驚かれたが、家族を挙げて心から結婚を祝い歓迎してくれ、子どもたちが街を案内してくれた。

その後1991年アユタヤは世界遺産に登録された。あの街全体に流れるほのぼのとした落ち着ける歴史と伝統の街アユタヤは、今でも強く心に残っている。



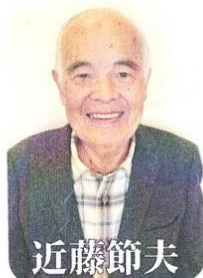
タイ軍人さんの家族に歓迎される

2. 自由の女神像（アメリカ）

これまでに200か所ほど世界遺産を訪れ、それぞれに深い感銘を受けた。それはアプローチの仕方や接し方によってかなり印象が変わってくる。印象深く記憶に残った5つの世界遺産につき思いつくままに心象を綴った。

印象に残った世界遺産の旅

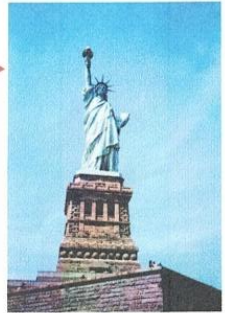
これは、歴史的に価値の高い建築物が多い。だが、外国の石造りの建築物とは異なり、そのほとんどは木造の国宝であり、重要文化財である。これは安易に触れることができないばかりか、近づくことすらできないのが惜しい。



近藤節夫 (1938年生まれ・東京都エッセイスト)



<http://www.mr-kondoh.com>
近藤節夫のホームページ



自由の女神像 ▶

暫く歩けな
かった。た
だ、それだ
けの体験で
今以てこれ
が世界遺産
とはどうとも思えない。
そんな不細工な女神像だが、アメ
リカ独立百周年記念にフランス政府
から寄贈され、1993年日本で最
初に登録された法隆寺より古く、す
でに1984年に世界遺産として登
録されていたとは意外だった。

3. プラハ（チェコ）

プラハには格別な思いがある。
1968年プラハ市内のカレル大学
へ留学するためシベリア経由で渡航
準備を進めていた8月、とんでもな
い事件が発生した。突然ソ連軍戦車
がワルシャワ条約機構軍を率いてプ

ラハ市内へ侵攻し、当時のチェコス
ロバキア全土を占拠してしまったの
である。いわゆる「プラハの春」と
なった事件である。留学は諦めなけ
ればならなくなった。

爾来プラハは憧れの地となった。
そして1980年1月初めて訪れ
た。市内の雪景色は情緒に溢れ、人
通りの少ない夕暮れ時に小雪の降る
中を、少女がひとり歩いている姿に
♪雪の降る町を♪の感傷的な幻想
を抱いたのである。世界で最も美し
い都市といわれ、市内の小高い丘の
プラハ城と、市内中央部を流れるヴ
ルタヴァ川に架かるカレル橋がロマ
ン溢れるプラハを絶妙に演出してい
る。

プラハ城から市内を見下ろすと、
ウルタヴァ川を挟んで高層ビルは一
切視界になく、「白塔の街」と言わ
れる多くの尖塔が目に入ってくる。
街にはガス灯の灯る地区もあり、中

世の面影を今
に伝えてくれ
る。文学では
カフカ、音楽
ではドヴォル
ザーク、マー
ラー、スメタ
ナを生んだ
文化の香りが漂い、心豊かになる世
界文化遺産都市である。



プラハ城を背景にカレル橋上で

4. マヤ文明のチチエン・イツツア（メキシコ）

古代4大文明の発祥の地といえ
ば、エジプトのナイル川をはじめと
して、すべて大河のほとりに文明は
開けた。しかし、中世マヤ文明が発
展した台地には、河川はなかった。
地盤が石灰岩だったため、安定した
飲料水を得ることが困難な環境だっ
た。一見して川の水には恵まれな

5. クレムリンと赤の広場（ロシア）

誰もが思い描くのは、政治の中枢
機関があるクレムリンの壁の前の赤
の広場で、そこではしばしば軍事パ
レードが行われる。1917年のロ
シア革命後、1918年にソ連の首
都がモスクワに移されて以来、クレ
ムリンが政治の中心となった。た
だ、クレムリンと言えば、世界遺
産というより、ソ連時代の秘密主義
と閉鎖性の冷酷な表現として使われ
た「鉄のカーテン」のイメージが強
い。実際赤の広場には革命を成し遂
げたレーニン廟があり、その周囲に
は四六時中軍兵



クレムリン前の警護兵

翻って現代人は、どこでも水は手
に入れられると考えがちで、「水の
ないところでは生きられない」とい
う。悲しいかな！マヤ人の発想と
知恵には遠く及ばない。

士が警護して、
広場に入る前に
無意識に緊張感
を覚える。そこ
は、文化とはか

け離れたような場
所に感じられる。

この赤の広場
は、背後にクレム
リンとレーニン
廟、目の前にグム
百貨店、左手に歴
史博物館、その外に道路の起点「ロ
シアの日本橋」、そして右手に聖ワ
シリイ大聖堂など存在感のある立派
な建造物に取り囲まれている。



クレムリン城壁前のレーニン廟を背に

しかし、どうしても冷酷なロシア
革命のイメージから抜けきれず、緊
張を強いられる世界遺産である。

世界遺産がすべて心に残ると
いうわけではない。どうして
世界遺産に登録されるようになった
のか。その根拠を調べてそれを自分
はどう考えるかということを念頭に
現場を訪れると、期待以上に世界遺
産の本質がよく分かる。

